

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0041 福岡市中央区大名
1-10-25 上村第2ビル603号室
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.117

2013年10月9日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 街道の下／画・甲斐大策

「緑の大地計画」の最大懸案に見通し	中村 哲
研修医時代の中村哲さんと仲間達	後藤哲也
ペシャワール会が発足した頃から	村上 優
医療から水資源確保事業への30年	ジア・ウル・ラフマン
わが「黄金の10年」	イクラムラ・カーン
座敷に居候の中村先生	高松明子
「精神と道義の貧困」が蔓延する世界の中で	中村 哲
遠くの高松先生へ	中村 哲

●カラー特集 ペシャワール会 30周年特集 第1回

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

「緑の大地計画」の 最大懸案に見通し

——たびたびの大洪水の中、事業は多様かつ大規模に

30年めの秋に

PMS（平和医療団・日本）総院長／ペシャワール会現地代表

中村 哲

皆さん、お元気でしょうか。

今夏の帰国は長く、暑い二カ月が過ぎようとしています。留守中、現地では大洪水の後始末が黙々と続けられていました。まもなく現場へ戻ります。

今秋も例年のごとく、河周りの工事が目白押しです。最大なのは、何といても「マルワリードⅡカシコート連続堰」の完成です。昨冬基礎工事を終えたものの、今夏の大洪水の影響で、かなりの修正を迫られそうです。これは良いことで、洪水通過を十分に考慮し、丈夫で長持ちするものが出来ると思います。

この半年を振り返ると、仕事は更に多様かつ大規模になっています（表参照）。上半期を見ると、カシコート、ベスードの護岸工事（改修）、カマ第一取水堰のかさ上げ、ベスード第一堰改修が洪水後に行われています。こうして、堰や護岸も年々強靱

になっていきます。

シギ地域の安定灌漑

二〇一二年三月に始められたシギ分水路（洪水路横断サイフォン二六〇mを含む約二km）が去る七月に開通、約一年半の小さからぬ仕事となりました。同工事区間は鉄砲水の通過地点が至る所にあり、最終的に大小七カ所のサイフォン建設を含む難工事となりました。（写真シギ・サイフォン）

これは事実上、「マルワリード用水路延長」と呼べるもので、シギ村落群下流域約一〇〇〇町歩を潤し、不安定な灌漑を解消し、安定した農業生産を約束しました。

これまで同地方は、既存のシギ用水路の取水量を調整できず、過剰送水で上流側の湿害が起るため、農家は途方に暮れていました。今秋にシギ取水堰改修と水門の基礎が成れば、上流側の悩みも解決、シギ地



シギサイフォン。小さいが手間がかかる。しかし恵みは大きい

方全域で安定灌漑を保障、シェイワ郡全域の灌漑計画が終局に向かっています。

「連続堰」とカシコート用水路

カシコートでは連続堰の基礎を終え、六月には既存水路への送水を実現しています。

今冬には一気に堰を完成させ、「緑の大地計画」の最大懸案に見通しをつけたとい



数年をかけ幅を広げる予定のカシコート既存用水路

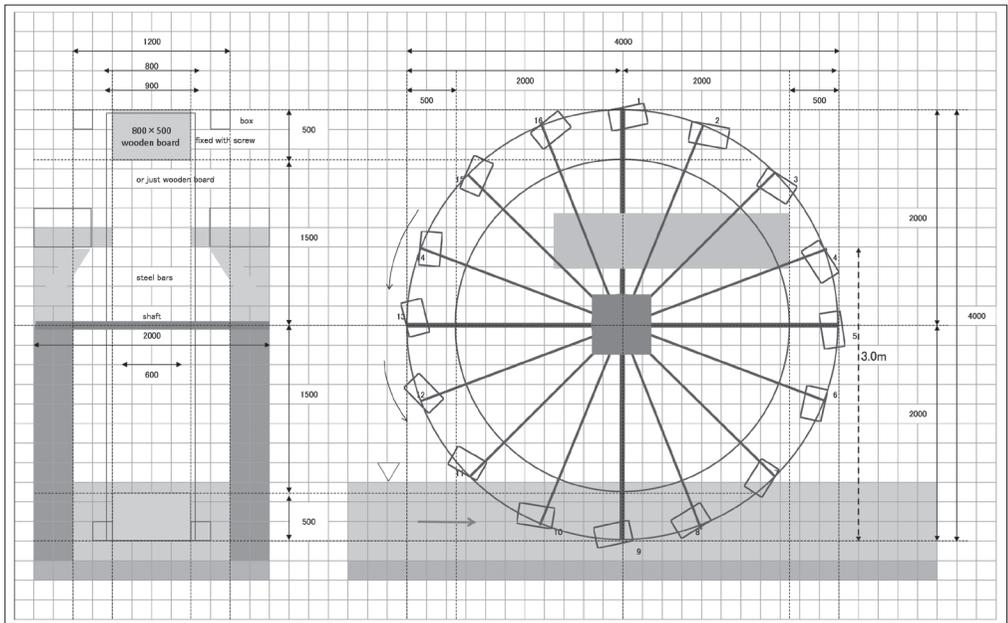
思っています。二〇一〇年を超える今夏の大洪水で、小さな変更はありますが、ほぼ予想通り機能することが分かりました。八月下旬、増水時の山田堰を日本でつぶさに観察でき、確信を深めました。
連続堰の基本構造は、ちょうど旧大石堰・山田堰をつなげたような平面形状です。堰長五〇五m、堰中央に二本の「舟通し」を造れば、完成します。

● 2013年度上半期の経過、下半期予定

		上半期の経過	下半期予定
ベスード郡	ベスード第一堰	大洪水後の改修が進行中	冬季に強化工事
	ベスード護岸（カマ郡対岸）維持	始点150mの決壊・改修が進行中	観察
		1700m地点の決壊・補修	
		2500m地点（しめきり堤）の強化	
	タプー堰	河道再生	冬季に強化工事
ベスード第二取水堰	調査中（洪水で崩壊）	2014年度に向けて渉外など準備	
カマ郡	カマ第一取水堰	取水門、周辺護岸部のかさ上げ	観察
カシコート	カシコート連続堰	河道変化の観察と対策	冬季に完工予定
	サルバンド村（堰の上流）護岸	石出し水制による強化	
	主幹水路上段部の造成	進行中	
	沈砂池（調節池）造成	進行中	
	既存水路の調査	調査中	連結部完工、拡張工事開始
	女子校舎（8教室）	待機中	基礎の着工予定
マルワリード	シギ分水路（シギ下流）	260mサイフォン（洪水路横断）の完工	マルワリード取水量増加
		分水路（計2km）完工	
	シギ取水堰（シギ上流）	洪水で崩壊、臨時取水路造成中	シギ堰、取水門建設
	カンレイ村揚水水車	試験設置	設置・完工予定
	ガンベリ開拓	オリーブ園造成	継続
		水稻栽培の増加	
防砂林の拡張			
固有植生（シーシャム、ビエラなど）育苗			
	排水路拡張		
ダラエヌール	診療所	医療職員宿舎完工	

主幹水路（約一・八km）の上段施工も進み、今秋から用水路沿いの植樹が始まります。調節池は七月に完成し、まもなく既存

水路との連結部（サイフォンなど）の本格的な施工が行われます。



揚水水車設計図

量が小さいことです。取水量毎秒四〜五 m^3 に対し、一・五 m^3 以下です。順番制で小麦や野菜は何とかなりますが、稲作は上流の村で終わってしまいます。

麦作だけでは土地が荒れるので、連作できる水稻栽培を何とか全域で実現したいところです。現地の人々はコメが大好きですが、これまで

不安定な灌漑で思うように作れません。単に水不足だけでなく、必要な時に必要な水量が得られなかったのです。コメは初秋まで田圃に十分な水を張っておかねばなりません。それが今まで不可能でした。小麦もそうで、雨の少ない現地では、熟成前の数週間に降雨がないと、収穫は一撃でダメになってしまいます。

しかし、安定灌漑で必要な時に十分灌水し、稲作ができるようになります、事態は一変します。コメは連作が可能で、栄養価も高い上、水田は土地を肥やします。小麦に使う肥料も著しく減らすことができます。

現地の食糧事情を考えると、これは大きな出来事です。農業生産は、飛躍的に増加します。同じ面積の耕地で、何倍もの人々を養うことができるのです。

また日本と違って、普通の農家は化学肥料や殺虫剤をほとんど使いません。買うカネがないこともありませんが、現地品種は発育が旺盛で、強烈な日光の殺菌力も手伝ってか、思ったより病害虫に強いのです。

既存水路の拡張計画

このような事情で、PMSは現在、住民と協力して既存水路の拡張、水稻栽培の拡大を計画しています。測量では、主幹水路約一・八kmに加え、約九・五kmを拡張すれば、カシコートの人口が集中する大半の地域を豊かにできると考えています。

こちらの事業は、PMSとペシャワール会単独事業で数年をかけて進め、せつかく難工事で得た取水設備を生かしたいと考えています。これについては、十分な立案の後、次号でお伝えしたいと思います。

揚水水車設置

これも長い宿題でしたが、マルワリード用水路沿いで一号機が今秋、設置されます。先ず一カ所・一基で実現し、有効であれば二連、三連水車を検討します。

六月に行った試験では、直径四mの水車

安定灌漑と稲作事情
問題になったのは、既存水路の送水可能



試験設置した水車 設計は朝倉の水車に基づいている

で、水面から三m高い土地を潤せ、一基で一日約三〇〇トンを汲み上げることができません。水稲はさすがに無理ですが、小麦や野菜なら一基で数十町歩を潤せます。

現地では木材が高価なうえ、耐久性に劣ります。そこで、木製水車と重量を同じにし、全て鉄とジュラルミンを使用、PMS事務所が制作しました。腕の良い溶接職人と修理工に作らせたものです。ここまで半

年、本体はできましたが、周辺の堰上りによる影響、水路の洗掘を考え、軸受けや水受けのしつかりしたものを置かねばなりません。今秋は用水路内に基礎を施し、やっと設置できます。

これは、用水路保全に村人を協力させる意義もあります。水の恩恵を受けぬ村は、当然協力しないからです。技術的には、改良を重ねながら、次第に優れたものになってゆくと考えています。

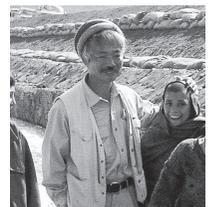
こうして、まるで賽の河原のようですが、大小の努力を積み重ね、少しずつ緑が増えていきます。

今、世を見渡せば、「収穫は多いが、働き人が少ない」というのが現実です。意外に思われるかもしれませんが、恵みは溢れているのに、それが見えにくい世界になっている。そんな気がしています。

確かにアフガン報道を見る限り、爆破事件や欧米軍の撤退、政治的かけひきなどの話ばかりで、絶望的にさえ思われます。しかし、少なくとも私たちは、希望を以て歩んでいます。

三〇年もの長きにわたる支えに感謝し、今後も「働き人」であり続け、喜びを分かちたいと思います。

皆さんもどうぞお元気で。



中村 哲なかむら てる：九州大学医学部卒。専門は神経内科（現地では内科・外科もこなす）。国内の病院勤務を経て、

一九八四年パキスタン・カイバル・パクトウンクワ州（旧北西辺境州）の州都ペシャワールに赴任。以来二九年にわたりハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始した。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保（井戸掘り・カレズの復旧。作業地千六百カ所以上）事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始、〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長二五・五キロが開通した。年間診療数約五万五千人（二〇一二年度）。

◎ペシャワール会発足30周年記念特集 第二回

研修医時代の

中村哲さんと仲間達

ペシャワール会会長

後藤哲也

ペシャワール会が三〇周年を迎えました。三〇年前の古い記憶が鮮明に残っている場面と薄れて忘れてしまった場面がモザイク風に頭をよぎりますが、よくぞ、こうして三〇年皆で頑張ったものだという感慨が心の大半を占めます。

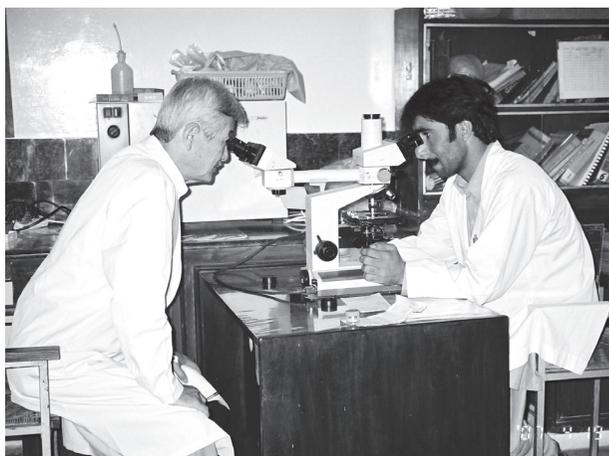
中村哲さんが研修医として国立肥前療養所に来たのは一九七二年四月でした。

当時は大学紛争の終焉期にあたり、医学生は大学の医局に入るより臨床力が身に付く臨床大病院に直に入る風潮があり、その影響で彼も肥前療養所を選んだと思います。療養所には彼の一つ先輩の、後にペシャワール会初代事務局長をしてくれた故佐藤雄二君がおり、また、一つ後輩には二代目事務局長をしてくれた村上優君がいました。私は中村哲さんが肥前に来た年に国立小倉病院から肥前療養所に転動してきていました。

当時の肥前療養所は大学に負けない研究をしたいと意気込む半面、のんびりした雰囲気、町中からは離れた場所だったため、医師たちは一仕事終わると医局と呼ばれる談話室に集まり、昼休みなど囲碁、将棋を楽しむ人、それを観戦してがやがやと賑やかなひと時を過ごしたものでした。中村哲さんも囲碁を楽しんでいました。勤務時間終了後はマーシャンも盛んでした。夜は当直でもないのに泊まり込む医者、研究に余念のない医者で遅くまでこの談話室は活躍したものです。

当時肥前療養所の医者は研修医を含めて二〇名ほどでしたが、研修医の仕事は、主に病棟の患者さんの診察に当たること、六棟ある病棟を数カ月ごとに回って、急性から慢性の患者さんを診察し、或いは外来につき、カンファレンスに参加し、臨床を学びました。当時の肥前療養所副所長鮫島健先生が「今度の研修医には無口だが抜群にカルテのうまいのがある」と評しておられました。その研修医が中村哲さんだと皆すぐ了解しました。

しかし中村哲さんは二年後「他の領域も勉強したい」と呟いて肥前療養所から大牟田労災病院（神経内科）に移っていきまし



PMS 基地病院検査室でらい菌を観察中の後藤会長（左）

た。大牟田労災病院院長は故高松勇雄先生で、中村哲さんの仲人をされ、後にペシャワール会の二代目会長を務められました。

私は一九八二年天神に精神科クリニックを開設しましたが、一九八三年、故佐藤雄二ペシャワール会初代事務局長が目を輝かせて「哲ちゃんがペシャワールに赴任すると言っている」「応援団を作りたいから応援してほしい」と言ってきた。「勿論」と即答しましたが、当時は三〇年後のペシャワール会の活動など全く想像すらつきませんでした。ただ、今にして偉大な事業の成果を目の当たりにすると、苦労もあつた

けれども輝かしいペシャワール会の三〇年

ペシャワール会が

発足した頃から

ペシャワール会副会長

村上 優

「哲ちゃん」を支えた人々

一九八三年にペシャワール会が創立したが、その多くは中村哲医師自身が山の仲間、大学・高校同窓の仲間、教会の人々、病院関係者などを巡って呼びかけた結果である。彼の仲間にはユニークな発想をする人々が多く、そして集まった人々が「哲ちゃん」を愛していたともいえる。

リパブール熱帯医学校を経てペシャワール・ミッション病院に赴任する予定の、中村医師を励ます会の性質を帯びた発会式は多くの人が集まった。九州大学医学部同窓生、医師として初めて働いた国立肥前療養所や大牟田労災病院の医療関係者、教会や関連したYMCAなどの会、そしてペシャワールに赴任するきっかけの一つとなった福岡登高会やティリッチミール登山隊との出合いがあった。それぞれ初代会長の問田

に心からの感謝を込め稿を終えます。

直幹（九大教授）、初代事務局長の佐藤雄二（国立肥前療養所医長）、二代会長高松勇雄（大牟田労災病院院長）、ティリッチミール登山隊の隊長を務めた福岡登高会・池邊勝利の諸氏である。いずれも既に鬼籍に入られたが、初期のペシャワール会の枠組みを支えた人々である。

あいまいでユニーク

当初ペシャワールへの中村医師の派遣主体は日本キリスト教海外医療協力会JOC Sであり、その代表的なワーカーであった岩村昇医師も発会式にみえていた。JOC Sは現地で活動する上で必要な薬品や機材は現地調達为原则であるが、「武器がなければ戦はできぬ」と必要な医療器材などを購入する資金集めのために、中村医師自身がサポーターを組織したのがペシャワール会だった。組織したといっても曖昧な性質で、会則に「会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫し自由なやり方で支援活動を行う」とある。そのほうが数多くの多様な賛同者を得て、ユニークで発想力に富んだ活動となり、途切れることなく今日に至る。

JOC Sのルールからは外れた存在にあったが、七年後、JOC S派遣が終了すると、中村医師の活動を資金的にサポートす

ることになった。一方で中村医師個人の交友は広く、匿名で支えた人も多くいたことも事実である。発会当時、中村医師の念頭にはあったかもしれないが、その後には次々と広がる現地活動を支援することになると誰が考えただろうか。

一方、中村医師の周りには、自主的に自然に集まったアジアを考える若い人々の輪があり実際の会の運営はなされていた。

中村哲ファンクラブ的な同好会の運営で、中村医師の関係する福岡高校の同窓生、香住ヶ丘教会、地方公共団体職員、福岡徳洲会病院などの人的、資金的、実務的な参加



ジャララバード事務所応接室。ジア医師（左）と会談する村上副会長（2009年）

があった。いずれも自主的で任意的なものであり、組織として動いたという印象はない。その伝統が三〇年も続いたのだから、その核にある中村医師の存在や活動への共感が大きかった。

百の議論より実事業を

ペシャワールでのハンセン病医療から始まり難民医療、アフガニスタン東部での山岳診療所、ペシャワールでの基地病院設立、井戸事業、用水路建設、間にはアフガン空爆時の食料提供など時々刻々に進む活

医療から水資源

確保事業への三〇年

PMS (平和医療団・日本) 副院長

ジヤ・ウル・ラフマン

ペシャワール会本部の皆様へ

一九七九年のロシア(旧ソ連)のアフガン侵攻後、数百万のアフガニスタン人が祖国を離れてパキスタンに避難していた当時、一九八四年より、ペシャワール・ミッシェン病院ハンセン病棟で活動をしておられたドクター・サーブ中村は、これらアフガン難民を援助すべくJAMS(ジャパ

動が、ペシャワール会に集まる人々の動機であり続けた。百の議論や分析、計画よりも実際に行われる一つの事業が如何に人々の共感を得るものかと今更ながら思う。無名の善意が集まり、事務局の集りはとてもにぎやかでも外に向けて雄弁に語る者はなく、中村医師が行う現地事業をありのまま伝えることで成り立つ三〇年間のペシャワール会。

その伝統は最初より存在していた。

三〇年前を思い起こしてみると、中村医師は当時の「哲ちゃん」のままではあるが、

ン・アフガン・メディカル・サービス)を設立し、本格的に難民診療活動を開始しました。ご存知の通り、ヒンドウークシユ山脈周辺はハンセン病患者が多く、彼らもまた村を離れてペシャワール近郊に移り住んでいました。そこで、これらハンセン病患者や現地の貧しく医療を受けられない住民を救うため、パキスタンのテメルガル、チトラール、コーヒスタンの三カ所とアフガニスタンのダラエヌール、ダラエピーチ、ダラエワマの三カ所に診療所を開設しました。

アフガニスタン東部ではこの十数年間、人間と動物が同じ水源の水を飲まなければならぬほどの深刻な干ばつに見舞われており、PMSはナンガラハル州のソルフロ

現地から発せられる気宇壮大な世界観や人生をみると師に感じる。その構想力や、歴史観、判断力や行動力など比類なき活動をする鉄人と、どこにもいるようなおじさんの風情が混在している。中村医師とともに歩んだペシャワール会。アフガンの山間部で生き続けようとする人々への中村医師の素朴な共感と愛情が、自然や人々から照らし出されて私たちにも伝わっている。強い組織を持たない、善意に揺り動かされる自然な人の集まり、これは初めからのペシャワール会の伝統だったのかもしれない。

ッド、アチン、ローダット、ダラエヌール、そして国境の町トルハムにおいて井戸掘りを始めました。これまでに計一六七〇本の井戸を掘りました。

アフガニスタンでは人口の九割が農業を生業としており、この干ばつで大打撃を受けました。PMSは農地を復旧すべく二〇〇三年灌漑用水路建設事業に着手しました。全長二五・五キロに及ぶアベ・マルワリード用水路完成後は三〇〇〇ヘクタールを超える農地が灌漑され、難民となった多くの住民が故郷の村に還って来ました。また診療所のあるダラエヌール渓谷では一四本の灌漑用井戸を掘りました。さらにシェイワ郡に二カ所、カマ郡に二カ所、ベスード郡に二カ所の取水堰を建設しこれらの取

【カラー特集】 ペシャワール会 30周年特集 第1回

上：中村医師が1984年に赴任したペシャワール・ミッション病院ハンセン病棟。回診中の中村医師と現地看護師達
右：ハンセン病棟のサンダル工房で感覚障害による足底潰瘍防止用の靴を作るモルタザ親方（右）達



ハンセン病によりドロップフット（垂足）を引き起こした患者の再建術をする中村医師

右…パキスタンのアフガン難民キャンプで診療をする中村医師とJAMS職員。赤痢、腸チフス、結核、皮膚病等を患っている人が多くハンセン病のみの診療は不可能であった
 右下…JAMS（ジャパン・アフガン・メディカルサービス）。アフガン難民診療の為、一九八六年開設

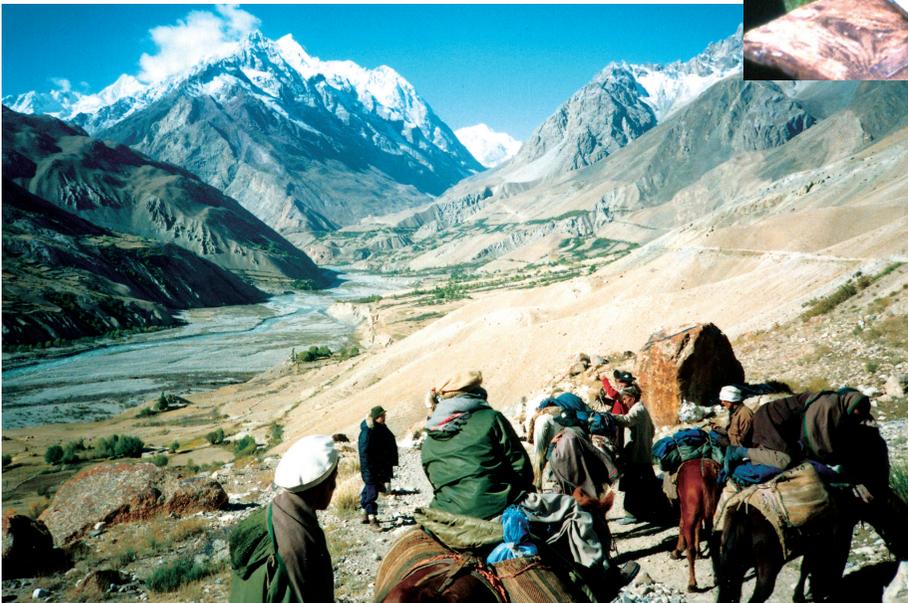


右…PMS基地病院。現地活動15年目（1998年）に恒久的な診療施設として建設された
 上…パキスタン北部山岳地帯奥地の無医地区で診療中





左／左下…パキスタン・アフガニスタンの国境
越え。アフガニスタン国内山岳無医地区に診療
所開設の為、職員達と調査および巡回診療に赴
く中村医師（いづれも中央）



左：パキスタン、カイバル・パクトウンクワ州（旧
北西辺境州）最北に開設したラシユト診療所へ
向かう中村医師一行

右…ダラエヌール診療所 一九九一年開設。一九八九年、ソ連軍撤退後、調査をはじめ、アフガニスタン国内の医療過疎地のダラエヌール、ダラエピーチ、ダラエワマの三カ所に診療所を開設していった



左…ダラエワマ診療所。診察を待つ人々は、高地（標高約三〇〇〇メートル）に住むヌーリストानीとよばれる民族



右…カーブルの診療所。大干ばつと内乱で国内避難民が集中していた首都カーブルが、無医地区となつた為、二〇〇〇年三月、五カ所に開設





ジア副院長（左）。隣はPMS基地病院事務長時代のイクラムラ氏

水設備の完成により、カマ郡では約七〇〇〇、シェイワでは約三五〇〇、ベスードでは約三〇〇〇ヘクタールが耕作可能となり多数の住民が恩恵を受けて帰還しました。

一方、現地の治安悪化を受けてPMSの農業プロジェクトをダラエヌール渓谷から、マルワリード用水路末端のガンベリ沙漠に移し、約一八〇ヘクタールの土地をパイロット・ファーム（試験農場）として確保しました。現在はこの試験農場に用水路から水を引き、開墾しながら作物の栽培を実施しております。

アフガニスタンを襲っている大干ばつと戦乱で国内避難民が首都のカブールに集中していた頃、国連制裁に従って大半の国際NGO団体がカブールから撤退し、カブール市民は様々な健康問題を抱えています。そこでPMSではカブールに五カ所（カラエザマンハーン、ラフマンミナ、チエルストン、ダシュテバルルチェ、カルガ）に診療所を開設。さらに厳寒のカブールで避難民たちが越冬できるように一家族に二〇〇キロの小麦と一六キロのギー（調理油）を配給しました。またダラエヌール診療所では、母子衛生支援のため、栄養不足の妊

婦や未熟児を抱える家族にも食糧を配給しました。既述の活動はドクターサーブ中村の立案のもと実施され、米国による対タリバン攻撃が行われる中でも続行しました。

私はアフガニスタン人の一人として、ドクターサーブ中村と日本の皆様の支援に深謝するとともに、皆様のご長寿と繁栄を心からお祈り申し上げます。

我々PMSスタッフ一同はPMSの活動が三〇年もの長きにわたって続いたことを本当に嬉しく思い、今後もPMSとそこで働く皆が末永く命永らえることを祈っています。

敬具

わが「黄金の十年」

TMS（タウン・メディカルサービス）院長

イクラムラ・カーン

親愛なるペシャワール会の皆様！

この場を借りて、ペシャワール会三〇周年にお祝いの言葉を申し上げます。私自身がペシャワール会の一員であることは誠に名誉なことでありませう。私がペシャワール会と共に過ごした「黄金の十年間」は忘れられないことのない年月でした。これまでに

皆様はPMS（現TMS）という形でペシャワール、ことにカイバル・パクトウンクワ州（旧北西辺境州）の貧しい人々に手渡してくださいました。あらゆる意味で私達の大切な財産となりました。これによって地元住民に基本医療施設を提供出来るだけでなく、そこを拠点に様々な福祉プロジェクトに取り組むことが出来ました。例えば二〇一〇年の大洪水の時の以下のよう

- ・ 四九六家族に食料を支給
- ・ 三八一家族に寝具を支給
- ・ 二〇〇家族に調理器具を支給
- ・ 四六家族に損壊した家屋の修理費として現金を支給



女性の裁縫技術向上支援活動現場のイクラムラ氏

上記活動の資金の大半はペシャワール会員の皆様から寄せられました。当時支援を受けた人々は今もあの時のことを覚えていて、本当に助けが必要な時に救って下さったと支援者の皆様の寛大な援助に感謝し、皆様のお幸せを祈り続けています。

あの時は、政府でさえ被災者の復興支援を助けることが出来なかつたのですから。

社会の財産に

皆様から引き継いだものと同等レベルを私が提供することは不可能かもしれませんが、日本ペシャワール会の名に恥じないよ

う最善の努力を尽くしているところですよ。以下に、現在私達が実施している（病院業務以外の）活動内容を紹介します。

まず、貧しい家庭の唯一の稼ぎ頭である一方で、将来性が見込まれる熱心な勉強家の若者五名に、顕微鏡を付与しました。これは米国からの輸出品の一つが一三四〇ドルするものです。この若者達は現在も引き続き勉学に励んでおり、将来、社会の重荷ではなく財産となってくれることを願っています。

また、福祉センターには職員給与、学生向け書籍、家具、教室備品という形で恒久的な支援を行っています。この福祉センターは成人女性に裁縫や刺繍の訓練を無料で提供しています。受講生のほとんどは訓練終了後ミシンの無料支給を受け、家族のために収入を得られるようになっています。

さらに、体は動くけれど病気を患って物乞いをしている人を無料で治療し、よき市民となるべく支援しています。治療後は仕事を提供し、道端で物乞いする代わりに仕事をし収入を得られるように援助しています。

今年はいくまでか二回、ハザラ人居住区などの僻地で医療キャンプを実施し、六〇〇人を超える患者を無料で治療しました。またアボタバードにあるパキスタン・アイリッシュ・リハビリ・センター(P.I.R.C)

と連携して、障害者に低価格で義手・義足を提供してもらっています。

現在のペシャワールの病院はあらゆる意味で設備は整ってはいませんが、それでも出入り門そばの待合室と倉庫の上に三部屋増設しました。また発電機ルームに隣り合わせた駐車場裏の土地の一角を購入しようと交渉中です。法外な額を要求されていますが、現在も交渉を続けており、地主と合意に達することを祈っています。

ペシャワールは最悪の治安

ペシャワールは皆さんがここを発たれた頃のペシャワールではなくなりました。以前よりさらに治安が悪化し、危険になりました。前政権は平和と安定をもたらすことが出来ず、新政権は何か平常な状態に戻そうと最善を尽くしていますが、今のところこれと言った改善は見られません。お金があり、この地になんのしがらみもない人々は既にペシャワールを離れて安全な地域(国)に引越して行きました。今やペシャワールの町中を自由に行き来するのは大変難しい状況です。道路という道路には検問所が設置され、そこを通過するために車が延々と列をなしています。

タリバンと政府間の交渉は検討されていますが、ディール地区で軍の少佐とその側近二人が殺害されたことにより、平和へ

のプロセスは一時停止するでしょう。問題は、よくない価値観を抱いた武装グループがそれぞれにタリバンの名を使って焼き討ちや誘拐などをしていることです。また政府もそれを阻止することが出来ないまま現在に至っています。

わが国の状況は、政治・経済・内政の全てにおいて悪い (bad) 状況から最悪 (worst) の方向に向かっていきます。例えば二〇〇グラムのナンは、皆さんがおられた頃は六ルピーでしたが、今では一五〇グラム (これまでナンが一五〇グラムだったことなどありませんでした) が一二ルピーで売られています。今では誰もが他人を騙すことしか考えていません。そうするしか生き残るすべがないと思っているからです。国民は皆、前政権による大規模な腐敗や国

有財産略奪行為を呪っています。これから先、現政権在職中に一体どういう事態が起きるのでしょうか。その答えはまもなく見えてくるでしょう。過去二回政権を取り腕前を試された現政権には、現在のところ、何ら大きな改善も見られず、奇跡は期待できそうにありません。

ペシャワール会は貧しき民の希望の光であり、彼らが必要な援助を必要な時に皆様が差し伸べてくださったことにいつも感謝し、皆様の繁栄と成功を心から祈っています。最後になりましたが、幸せが、太陽の光のように、永遠に皆様の上に燦燦と輝き続けますように！

Long Live Peshawar Kai

(ペシャワール会よ永遠に！)

Long Live Japan - Pakistan Friendship.

中村哲【最新刊】著者初の自伝！

天、共に在り

アフガニスタン三十年の闘い

四六判上製260ページ(内カラー4ページ)

定価…本体1600円十税

第一部 出会いの記憶 1946～1985

第二部 命の水を求めて 1986～2001

第三部 緑の大地をつくる 2002～2008

第四部 沙漠に訪れた奇跡 2009～

NHK出版

〒150-8081 東京都渋谷区宇田川町41番1号

電話…03(3464)7311(代)

FAX…03(3780)3353

(日本とパキスタンの友情よ、永遠に！)
最大の敬意を込めて

二〇一三年九月一九日 在ペシャワール
タウン・メディアカル・サービス院長
イクラムラ・カーン(退役)少佐

*元PMS(ペシャワール会医療サービス)
事務長

▼郵送方法の変更について▼

*一部地域の方々へは発送代行業者を通して別納郵送しております。差出人欄に代行業者名が記載されますのでご了承下さい。

▼郵便払込票の記入は分かりやすく▼

*ご寄付をお送り下さった郵便払込用紙は、郵便局からコピーで届きますので、文字がにじんだり、かすれて判読しづらい場合がございます。楷書で分かりやすくご記入いただければ大変助かります。

▼未使用の切手、ハガキを！▼

*会報の発送等の通信費に、年間数百万円がかっております。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。(使用済みハガキ・切手は受け付けておりませんのでご理解下さい)

*一部地域の方々への会報は「料金別納郵便」でお送りしておりますが、その際も料金の代わりとして未使用切手で支払っております。

座敷に居候の中村先生

ペシャワール会事務局

高松明子

中村医師との出会い

ペシャワール会三〇周年記念に何か一筆をと言われ、筆不精の私が……と悩みました。

本来ならば私の主人高松勇雄（ペシャワール会第二代会長・名誉会長 平成二五年五月二一日逝去）が書くべきでしたが、残念でなりません。

そもそも高松と中村先生との出会いは、高松が大牟田労災病院に勤務していた時、中村先生が国立肥前療養所から出張で来られた事でした。その頃、高松は単身赴任で、高松と中村先生は別の宿舎に住んでいたと思います。

その後、高松は院長になり病院が院長宿舎を建てるので、好きな様に設計して下さいと言われ、二人でここは貴方の居間、ここはお座敷などと立派な床の間もつけました。素人なりに自分の家の様に設計し、単身赴任者には勿体ないようでした。私は子

供達と高松の父もいましたので、福岡に居住していましたが、新宿舎を楽しむにいました。

床の間に標本箱、畳には？

宿舎が出来て間もなく、掃除に行つてみると、床の間にチョウウの標本が積んであり、誰かが住んでいるようなので、聞くと、「中村君だよ、好きな部屋にと言つたら、座敷がいいですと言つたから」ということでした。どんな先生と聞くと、「それがなかなか面白くて、ちょっと変わったいい先生だ」との返事。でも私は、年は若いし、後からみえたのに一番立派な座敷に住んでおられるのにはちょっと吃驚しました。そしてよく見ると真新しい畳の、それも部屋の真ん中にタバコの焦げ跡があり、うぐいと思いましたが、高松は気にならずに中村先生との同居を楽しんでいる様でした。

今思えば大変失礼な事でした。高松は余程中村先生と気が合うのか、「中村君は大した人物だ。よく勉強もするし、なかなか優秀だ」と随分褒めてばかりでした。年も二〇歳近く違うのに、話も合う様でした。今でも不思議に思うのは、病院の宿舎が同じ敷地内にあるのに、なぜ一緒に住むようになつたのか、生前に聞いておくべきでした。

その内、私もお会いする機会があり、本

当に高松の目に狂いはないと確信しました。

そして病院に気立ての良い看護師さんがおられ、医者の間では評判になっていた様でした。その方が尚子さんで、めでたくご結婚となり、喜んで仲人をお引受しました。今振り返ってみれば、尚子夫人は中村先生になくはならない方だと思います。

結婚なさって、新婚旅行もパキスタンだつたと思います。それから五年後ぐらいにペシャワール会を立ち上げられた時も、今でこそ、皆パキスタン、ペシャワールがどこにあるかという事は知っていますが、当時はペシャワール会の説明をするのに困りました。やはり、中村先生は変わつていらつしやると思い、まあ、二、三年も続けばと思つていましたが、高松は益々先生のファンになり、私も高松と二人で毎年の総会に出るようになり、先生のとりこになつてしまいました。

ヒンズークシユの神に襟首を

先生のおっしゃる「三無主義（無思想、無節操、無駄）」、また「一隅を照らす」「天の時、地の利、人の和」、全て共感できる言葉です。特に三無主義はすごいと感心しています。

高松が中村先生と同じ屋根のもとに住まなければ、先生との出会いもなかったと思

2014年カレンダー

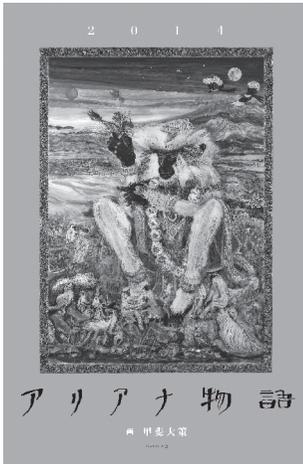
「アリアナ物語」

画・甲斐大策

販売中です

A2判変型(画・7点)

定価: 1500円(税、送料込み)



今年も恒例のカレンダーを制作しました。同封のハガキでお早めにご注文ください(ご友人・知人の方々へのプレゼントも承ります)。

います。

今は、こんな立派な先生を「タバコの焦げ跡のことなどけしからん」と思ったこと、深く反省しています。何故なら私の様なでも事務局で先生のお手伝いがさせて頂ける事は本当に有難い事です。

福岡アジア文化賞大賞受賞の催しや、ペシャワール会の三〇周年の時に高松がいないう事が、かえすがえすも残念でなりません。高松は常々「中村君は、ヒンズークシユの神様に襟首を掴まれたんだ」と言っておりましたが、主人と共に喜びたかっただと思っっています。

最後に先生をご支援して下さる会員、支

援者の皆様、事務局のボランティアの皆様、先生の夢であるアフガンを緑の大地にする事、そして老後は昆虫採集やクラシック音楽を聴きながら猫との昼寝が実現しますよう頑張りますよう。

よろしくお願いいたします。

▼寄付をしてくださる皆さまへ▼

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願いいたします。

サファール・バハエル!(良い旅を)

15

錠前屋アズイ

甲斐大策

ペシャワールの南二五km、ダラー・アダムヘル(支族アダムの谷)、銃器製造で知られるバザールが街道沿いに数十棟軒を連らねる。

錠前屋アズイは、ペシャワールの高級ホテルを解雇され、ラマダン明け間近なこの日、ダラーへ帰ってきた。便乗したトラックから降り、従兄が雑貨を商う店へ入る。代々一族が鍛冶の工房としてきた建物である。

「サラーム、アズイ。カードキーで解雇だつて聞いた……何があつた?」

二人は同年生れの四五歳、一族の誓で育つた。あんな気取つたホテルで一年も、と辛い口調の従兄は抱擁の両手を広げる。ラジオから流れるカッワリ(イスラム頌歌)が二人を包む。

「錠前屋の名が、これのせいでくび……。ラマダン明けの放送は……未だなんだ……。」

曾祖父は、銃の撃鉄の鍛造に勝れた鍛冶だつた。また、盗人泣かせの錠前を創作、その一つが破られた事件では、曾祖父本人の犯行では、との噂が立つ程評判の錠前を造つた。人々は一族の誰かれ区別なく、錠前屋の愛称を冠した。祖父の代、中国製の錠が普及、一族には愛称だけが残つた。

「金髪美人揃えたロシア人達の出稼ぎマッカ往復便、それに乗るワズイルの長老一行が、ブルを見下ろせる唯一の特別室に入る筈だつた。そう、朝入つて一泊……。ところがカードキーの不具合から別室で待つて、入室したのは夜だつた。飛行前日の午後一杯ブルで過す娘さん達を拝めずじまい、長老の怒りは凄かつた。コンピュータ技術等と一緒に私も呼ばれたが、名前だけの錠前屋に何が解るもんでもない。長老の面前でくび……。」

アザーン(祈りを誘う詠唱)が届き、バザールも正面の丘も赤い。日没が近い。

ラマダン明けは皆一緒だな、と従兄は香油の瓶と鉛玉の袋をアズイに手渡す。

実家の誓まで四km、アズイは歩き始めた。

「精神と道義の貧困」が蔓延する世界の中で

—福岡アジア文化賞（大賞）授賞式でのスピーチ

PMS（平和医療団・日本総院長／ペシャワール会現地代表 中村 哲

中村哲医師は、二〇一三年九月、福岡アジア文化賞大賞（福岡市、公益財団法人よかトピア記念国際財団主催）を受賞した。

*

「福岡アジア文化賞」を授与される栄誉に、感謝と喜びを申し述べます。

私がこのような賞に相応しいか、正直なところ自信がありません。私の世界は、九州とアフガン東部だけです。いわゆる「国際人」ではありません。

しかし、三〇年間の現地活動を通して、アジア世界全体に共通する苦悩を多少分かち合えるかも知れません。

アフガニスタンは過去三五年間に及ぶ戦乱、外国の干渉に悩まされると共に、大規模に進行する干ばつと洪水で、人々は生存する空間を失いつつあります。現地の気候変化⇨温暖化による影響は生やさしいものではありません。かつて完全に近い食糧自給を誇っていた農業立国は、自給率が半減し、瀕死の状態です。国民の殆どが現金

収入のない農民であることを思えば、これは恐るべき事態です。

報道で伝わる「アフガン問題」は、政治や戦争でなければ、アフガン伝統社会の暗黒面ばかりで、自然の猛威が大きく取り上げられることは余りなかったと思います。

こう述べる私たちも、初めは気づきませんでした。私たちPMS（平和医療団・日本）は名前の通り医療団体ですが、二〇〇〇年に大干ばつが顕在化したとき、清潔な飲料水と十分な食糧があれば多くの患者が死なずに済んだという苦い体験がありました。

国際支援の中で、水欠乏⇨干ばつによる食糧不足はあまり重視されなかつたので、自ら飲料水源、大小の水利設備の充実、とりわけ取水設備に力を入れてきました。多くの地域で地下水の枯渇と共に、大川からの取水困難が起きているからです。

現在私たちは、アフガン東部の穀倉地帯の一角で、一万六五〇〇ヘクタールで暮らす六五万人の農民たちの生存空間を確保し、

ひとつの「復興モデル」を完成しようとしています。戦は解決になりません。軍事干渉は、事態をいつそう悪くしてきました。

翻って見ると、これはアフガニスタンだけの問題ではないようです。世界を席卷する国際社会の暴力化、多様性を許さぬ画一化の中で、アジア世界全体が貧困にあえいでいます。その日の糧に窮するだけでなく、固有の伝統文化を失い、故郷を失い、人間の誇りを失い、和を失い、経済発展のためなら手段を選ばぬ「精神と道義の貧困」が蔓延しています。加えて、自然を思いのまま操作できるような錯覚は、世界に致命的な荒廃をもたらそうとしています。気候変動⇨自然に対する関心のなさ自身が、現代の病理を現しているような気がしてなりません。

他人事ではありません。やがて、自然から遊離するパベルの塔は倒れるでしょう。人も自然の一部です。科学技術や医学、あらゆる人の営みが、自然と人、人と人が和する道を探る以外、生き延びる道はないでしょう。でも今回、過去の受賞者の方々が温めてきた主張を見ると、驚くほど共感できるものが多く、自分が決して孤立してはいないことを知りました。これは大きな励みです。この声は今小さくとも、やがて大きな潮流となることを祈り、感謝の言葉といたします。



1998年4月、PMS 基地病院
設立式典に出席の高松元会長夫妻

遠くの高松先生へ

— 第二代会長高松勇雄先生を悼んで

PMS 総院長 / ペシャワール会現地代表

中村 哲

高松先生、偲ぶ会に間に合いそうにないので、遠くからお便り申し上げます。

もう四〇年ほど前に初めてお会いしました。先生が五〇代半ばで大牟田労災病院にお出でになった時でした。その後、病院長に就任され、小生はその配下で五年間働き、神経学や神経病理学を学びました。大脳病理学がまだ草分けの時代でした。

当時、病院は大きな転換期にあり、ごたごたが絶えない中、巧みに態勢を整えてい

かれました。

どうなる事かと思いましたが、先生持ち前の、ユーモアと、中庸と筋を通す美学、まっすぐな姿勢に惹かれ、喜んで手足となりました。飄々として温かい、人間らしい感触は、すっかりと心に刻まれています。互いにひどい愛煙家でした。二人で医局で話していると、部屋が煙突のように曇り、大きな灰皿に吸い殻の山がたちまちでき、驚き合ったものです。

大牟田労災病院を去った後も、ひとかたならずお世話になりました。もともと精神科畑だったので、後藤先生を初め、多くの知友を得ました。また、その後に大きくお世話になった脳神経外科の馬場先生との付き合いも、先生の時代に始められた「神経カンファレンス」でした。中沢先生から脳波の手ほどきも受け、その後、臨床家としてだけでなく役に立ったか計り知れませんが、神経病理で先生から習った標本作成や染色技術も、現地で求められた細菌検査で大活躍しました。

また、問田先生がペシャワール会の会長を退かれたあと、快く任を引き継がれ、現地の重要な時期に、陰に陽にお世話になりました。大牟田の料亭、「山査子」を覚えておられますか。小生が帰国した時は、先生の名で、好物の「うなぎのせいろ蒸し」が家に届けられ、一家で美味しくいただきました。

ました。この料亭との付き合いもまだ続いています。

先生が仲人となり、身を固めたのも、労災病院との縁でありました。おかげでいうべきか、小生は大牟田市の三池に居着いてしまいました。

最後にお会いした昨年六月、お元氣そうに見え、「物忘れがひどくなった」と、頻りにおっしゃっていましたが、そうも思えず、労災病院の話になると生き生きと思いを語っておられたのを覚えています。

もう一度お会いしたかったです、先生らしい身の引き方だったと思います。

いつも遠くにいたせいか、何だか実感がわきません。帰国すれば、ひょっこりと現れて、「山査子」でせいろ蒸しを食べながら、病院改革の謀りごとを巡らしているような、そんな気がしてなりません。先生は遠くへ行かれましたが、先生との縁は生きて続いています。そうはいっても、もう会えないとなれば、やはり寂しいです。

長い間、この世の務め、ご苦労さまでした。そして、この四〇年間、本当にありがとうございました。ありがとうございました。

平成二五年七月十一日
ジャララバードにて

* 第二代会長・名誉会長の高松勇雄氏は、五月二一日、逝去された。

●事務局便り

*中村医師は、七月から九月末までの、珍しく長い日本滞在だった。現地はラマダン（断食月）で、日本では福岡アジア文化賞大賞受賞（福岡市、公益財団法人よかトピア記念国際財団主催）に関わるいくつもの催しが続く暑い夏となった。中学・高校・大学での講演に市民向けのフォーラムでは菅原文太さんとの公開対談もあり、ペシャワール会の活動を「存じなかった方々にも関心を持っていただけたのではと思う。今回の受賞は、奇しくもペシャワール会発足三〇周年とも重なったが、会報ではこれから数号にわたり会創設からのエピソードを振り返ってみよう。

中村医師のミッシオン病院（パキスタン・ペシャワール）ハンセン病棟への赴任を後方支援するために会が発足したのが、一九八三年九月十八日のことである。発足の頃のことを中村医師は次のように記している。

《大ざっぱに言うと、「日本人の意気に感じて」、現実的事業遂行を助けようとする良心的な人々が集まった。従って、統一した思想も信条も何もなかった。この事がペシャワール会の独立を生むと同時に、現在に至るまで、会の性格を決定づけている。会員層も実に様々で、宗教性や政治性は名実ともない。会の方針が「無思想・無節操・無駄」の三無主義といわれる所以である。ただ、「政治性」と誤られ得るものがあるとすれば、現地での実事業を優先、異なる文化を許容し、

相手が個人であろうと国家であろうと、生命を軽んずる暴力主義を排除することである。この姿勢は一貫している》（『ペシャワール会報・合本』二〇〇四年）

中村医師は、現地に戻る会報六月号に始まり七、八月と続いた洪水の後始末に追われるとともに、マルワリード・カシコートの連続堰の完成に向けて全力を挙げています。会員の皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

*十月末には、中村医師の新著「天、共に在り」（NHK出版）が出版です。自伝的要素の強い内容ですが、現地事業三十年のエッセンスともいえる読み応えのある書籍です。ぜひご購入ください。

◎村から

会社員生活を終えたとき、これから何をしたらいいんだらうと悩んでいました。そんな時、元上司御夫婦がペシャワール会事務局でボランティアをされていると聞き、お願ひしてお仲間に入れていただきました。タイの子供たち、ユニセフなど金銭的な援助は行っていない方が、こんどは先生の活動を支援していただきたいという方々の登録とか、御礼のハガキをつたない言葉でお送りする仕事をしています。子供たちの笑顔、ピンクのれんげそう、緑の木々、映像を見るたびにうれしくなります。行動を起こすことが幸せだと先生はいつもおっしゃっています。自分にもまだやれることがあると教えていただきました。事務局の皆様ご指導宜しくお願いします。今とても幸せです。（Y）

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む
中村哲 用水路建設事業の7年をつづった感動の記録 【3刷】1890円

逆境で診る 逆境から見る 【3刷】1890円

医者 井戸を掘る 【10刷】1890円

医は国境を越えて 【6刷】2100円

ダラエヌールへの道 【重版・5刷】2100円

ペシャワールにて 【8刷】1890円

アフガン 高橋修・編著 農業支援奮闘記

農業計画6年余の失敗と成功を記した貴重な記録【新刊】2500円

聖愚者 甲斐大策の物語 1890円



石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24 電話092(714)4838

人は愛するに足り、真心は信ずるに足る

アフガンとの約束
中村哲／澤地久枝(聞き手) 1995円

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 電話03(5210)4000
価格はすべて税込価格(税5%)です

会 則

- ①本会の名称をペシャワール会とする。
- ②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。
- ③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
- ④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。
- ⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。
- ⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。
- ⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。
- ⑨本会の事務局をFARAH HOUSE (〒八一〇〇〇四一 福岡市中央区大名一丁目一〇―二五 上村第二ビル六〇三号) 〇九二―七三一―二三七二)内におく。